

1 豊橋市の街路樹の沿革

豊橋市において、街路樹が戦後初めて植えられたのは昭和 24 年のことです。戦後、「いきいきとした緑が欲しい」という市民の素朴な願いから市民とともに主要な通りに植栽が行われました。その後は緑化政策に基づく計画的な植栽が始まり、積極的に街路樹の本数を増やしていきました。

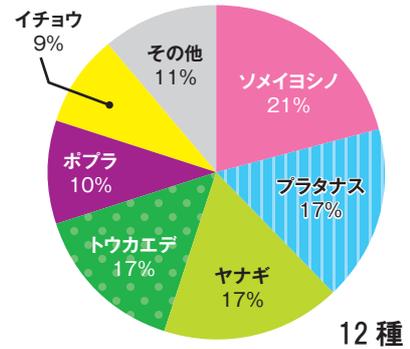
植える樹種についても当初は、まちなかに緑のボリュームを増やしたいという思いからプラタナス、ヤナギなどの成長の早い樹木が多く採用されました。その後、「花の咲く木が欲しい」といった市民の声を聞きながらハナミズキやコブシなど多種多様な街路樹が植えられるようになりました。

また、樹木本来の樹形を活かした自然樹形仕立てを採用し、緑のボリュームを増やしました。そして、昭和 57 年には第 2 回緑の都市賞において建設大臣賞を受賞し、緑のまちとして評価を受けました。

平成 2 年からは、市民参加による緑豊かなまちづくりを実現するため「財団法人豊橋みどりの協会」を設立し、街路沿線の市民からなる街路樹愛護会を立ち上げました。また、平成 27 年から緑のアダプト制度を実施し、市民との連携による緑化活動を進めてきました。

着実に増やしてきた街路樹は現在約 19,000 本にもなり樹種も 54 種に及ぶ多様な品種を織り交ぜたものとなっています。

昭和 51 年度 樹種別構成比



平成 28 年度 樹種別構成比

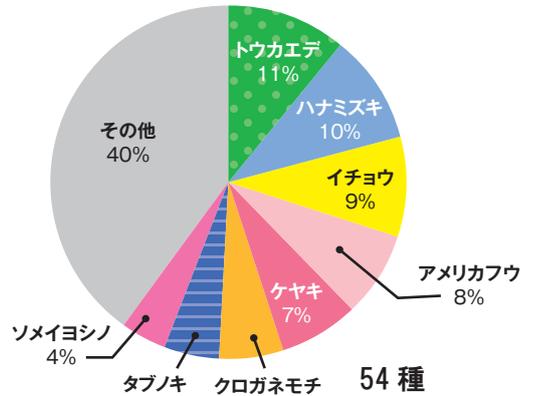


図 1-1 街路樹の樹種の変化

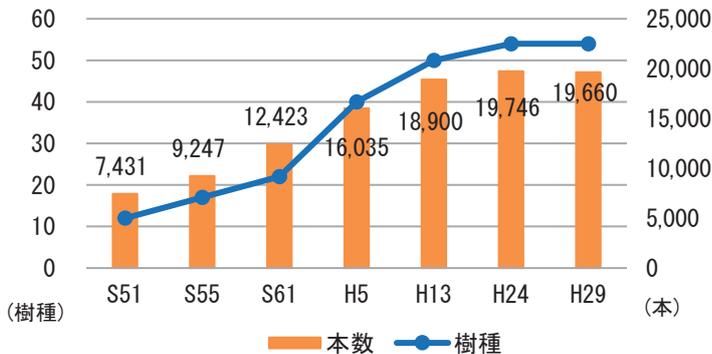


図 1-2 市道における街路樹（高木）の推移



写真 1-1 昭和の時代の街路樹

2 街路樹の機能・効果

街路樹には、景観向上機能を始め、道路空間に親しみやうるおい、安らぎなどをもたらす多くの機能や効果があります。



景観向上機能

街並みを調和させ、新緑や紅葉、花の彩りが季節感をもたらす美しい景観を作り出す。また、シンボルや目印としてはたらく、まちに印象深い情景を生み出す。



環境保全機能

ヒートアイランド現象緩和など沿道住民の生活環境改善や、多様な生きものの生息や移動を可能とする緑のネットワーク形成に貢献する。



交通安全機能

ドライバーの視線誘導、ライトのまぶしさ軽減や歩道と車道を分離するなど、道路交通の安全確保に寄与する。



緑陰形成機能

樹木の樹冠により道路上に木陰を作り、寒暖や乾湿による気温の変化を和らげることで快適な空間を提供する。



防災機能

建物倒壊や火災延焼、風雨による道路浸食など、災害時や異常気象発生時の被害拡大防止に役立つ。



コミュニティ形成の醸成に寄与

街路樹に関わる活動へ参加することで地域への愛着心が育ち、人と人の結びつきが強まり、まちに一体感を生む。

図 1-3 街路樹の機能・効果

3 街路樹に関わる人々の意識

街路樹のある沿道の地域では、街路樹愛護会や緑のアダプト制度のボランティアによる日常的な清掃などの美化活動が行われています。

本指針の策定にあたり、街路樹愛護会の加入者、緑のアダプト制度登録者を対象に日頃の活動や街路樹に関するアンケート調査を実施しました。



写真 1-2 街路樹愛護会の活動の様子

ボランティアにとっての街路樹は「まちの景観に必要」なもの、「人に安らぎを与える」ものであるという認識が多くなっています。また、「まちのシンボル」と捉えている人も多く、街路樹の存在に肯定的な印象をもち、その効果を感じていることが読み取れます。

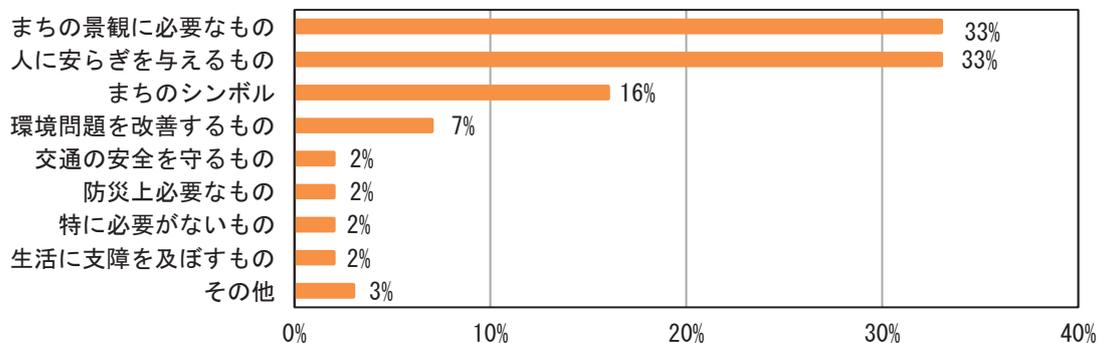


図 1-4 【設問】あなたにとって街路樹とは

4 街路樹に関する本市の上位計画

本市では、総合的な行政運営の基本を示す「第5次豊橋市総合計画」を中心に、都市計画や緑に関する計画などにおいて、街路樹を含む緑のある豊橋の姿を定めています。

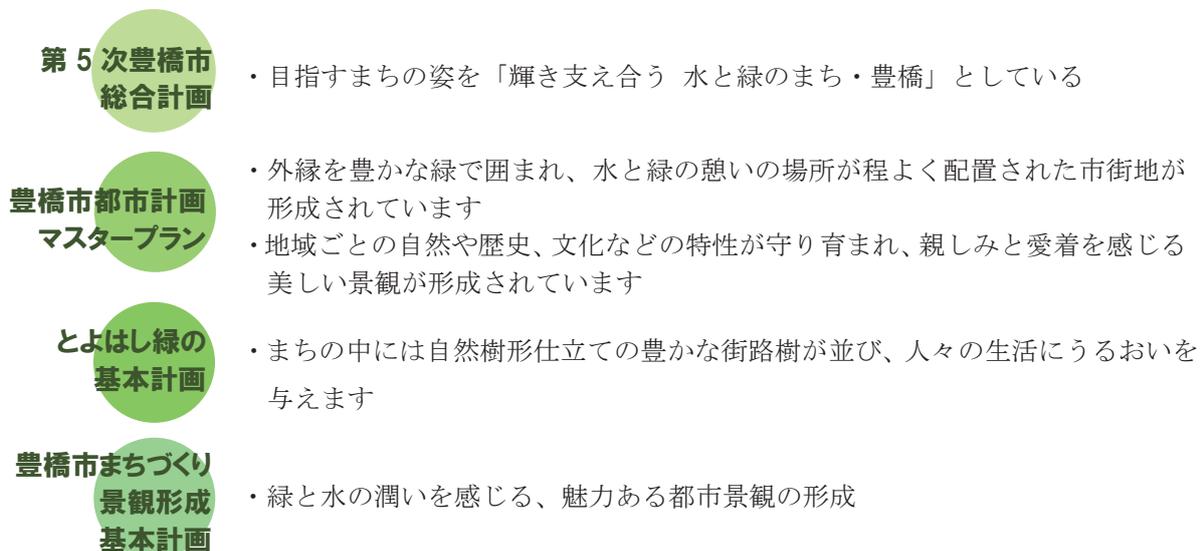


図 1-5 上位計画